

令和4年度 第72次印旛地区教育研究集会

学校図書館研究部分科会 提案資料

主体的に読み，考え，表現する児童の育成

～学校図書館の利活用を促進し，読書意欲を高める指導の工夫～



期日：令和4年8月17日

場所：印西市立印旛公民館

第5部会学校図書館研究部

四街道市立山梨小学校 小島 佑一

眞下 雄基

【目次】

1	研究主題	1 ページ
2	研究主題設定の理由	1 ページ
3	研究仮説	1 ページ
4	研究計画	2 ページ
5	研究の実際	
	(1) 仮説検証の手立て	2 ページ
	(2) 仮説検証実践	3 ページ
	(3) 仮説検証の結果と考察	9 ページ
6	仮説に対する成果と課題	13 ページ
7	主な参考文献	13 ページ
8	資料編	14 ページ

1 研究主題

主体的に読み、考え、表現する児童の育成
～学校図書館の利活用を促進し、読書意欲を高める指導の工夫～

2 研究主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

読書活動について、『小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 国語編』では、総説（5）に「読書指導の改善・充実」と記載されている。読書の意義や効用などに関する事項については、「読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養う。」と記載されている。

さらに、「学校図書館などの活用に関する事項」の箇所では、「児童が読む図書の選定に当たっては、人間形成のため幅広く、偏りがないようにし、豊かな人間性の育成に資するよう配慮する必要がある。」と記載されている。

(2) 山梨小学校 児童の実態から

本校の児童は、県標準学力検査や全国学力学習状況調査結果から、総合的には平均的な力は備わっているものの、読解力、表現力に課題が残る結果であった。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、本の貸し借りをはじめとした学校図書館の活用などに制限が多く、特に令和 2 年度は本に接する機会が少なかった。

以上のような理由により、山梨小学校では、読み、書く力を高めるために、本校の研究主題とし、学校全体で取り組んだ。また、学校図書館や、市立図書館などの施設との関わりを通して、読書の良さに気づき、主体的に読書活動を行う児童の育成を図りたいと考えた。読書によって、得た知識や本の面白さを自分なりに表現し、友達や他学年の児童に伝えるという活動を通して、表現するよさや達成感を味わわせていく。それらの活動を繰り返すことによって読解力や表現力を身に付けさせたい。

本研究において目指す児童像として、

「主体的に読む」は、自分から進んで読書をしたり、学校図書館、市立図書館を進んで利用したりする姿。

「考え、表現する」は、本の紹介などにあたり、他人の意見を取り入れ、自分の想いを表現する方法を様々な形式の中から、取捨選択し、表現する姿。

と定義した。

3 研究仮説

仮説 1

目的意識・相手意識を明確にした活動を工夫すれば、読書意欲が高まり、主体的に読み、考え、表現する力が高まるだろう。

(手立て)

- ・ 上学年⇔下学年, 教師⇒児童の読み聞かせ
- ・ 教室の環境, 掲示物の工夫
- ・ ミニ・ビブリオバトルなど図書館を利用した授業の工夫
- ・ 本の紹介

仮説 2

学校図書館・学校外施設を利用した活動を工夫すれば, 読書意欲が高まり, 主体的に読み, 考え, 表現する力が高まるだろう。

(手立て)

- ・ 読書貯金通帳の取り組み, 一定ページ数達成児童への表彰
- ・ 電子図書館の活用
- ・ 図書委員会を中心にした読書活動の啓発
- ・ 学習の成果を市立図書館に掲示

4 研究計画

年度	時期	研究内容
令和3年度	4月	実態調査項目検討・決定 実態調査・集計開始 研究主題検討・設定 研究仮説の検討 6年生:本の紹介実施, 1年生に読み聞かせ実施
	5月	理論研究 研究計画決定 2~6年生:本の紹介実施
	6月~8月	実態調査・集計及び考察終了 第2学年, 第6学年授業実践 4~6年生:下級生に読み聞かせ実施 2~6年生:本の紹介実施 夏休み親子読書
	9月~3月	第3学年授業実践 4~6年生:下級生に読み聞かせ実施 1~6年生:本の紹介実施 冬休み親子読書
	3月	実態調査・集計及び考察 授業実践の考察 実践内容の考察
令和4年度	4月~5月	実践内容の考察
	6月~7月	研究のまとめ 提案資料作成
	8月	研究発表

5 研究の実際

(1) 仮説検証の手立て

【仮説1・2検証の具体的な手立て】

検証方法: **実態調査の変容**

実態を調査するためにアンケートを行う。年度始め, 年度終わりで調査と集計を行い, 変容を見る。

(2) 仮説検証実践

A) 読書貯金通帳の活用【読書意欲】

- ・しおり・賞状作成 : 図書担当, 学校司書
 - ・計算及び記入 : 図書担当, 学校司書, 図書委員会児童, 担任
- 休み時間返却の際に, 読書貯金通帳を本と一緒にもっていくと, 図書委員会児童が計算, 記入する。休み時間以外の活用については, 担任か児童が計算・記入する。
- ・低学年: 年間 80 冊突破で表彰 (年間平均 60 冊から算出)

40 冊: 銀のしおり 60 冊: 金のしおり

中学年: 年間 5,000 ページで表彰 2500 ページ: 銀のしおり 4000 ページ: 金のしおり

高学年: 年間 10,000 ページで表彰 3000 ページ: 銀のしおり 6000 ページ: 金のしおり

→作成: 図書担当, 学校司書, 図書委員会児童

(共通理解事項)

- ・家で読んだ本の記入も可。(漫画, 雑誌×。教育漫画○。図書室にあるような本なら可。担任判断でよい)。通帳を持ちかえり, 本人か保護者が記入する。
- ・同じ本の記入はなし。



【令和 3 年度 児童の取り組み結果】

高学年 10000 ページ突破: 4 人 (高学年人数割合 10%)

中学年 5000 ページ突破: 17 人 (中学年人数割合 41%)

低学年 80 冊突破: 12 人 (低学年人数割合 27%)

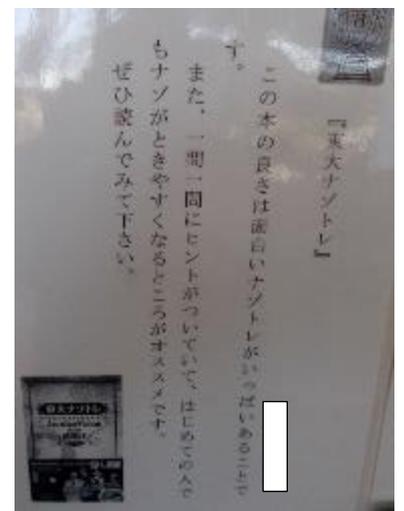
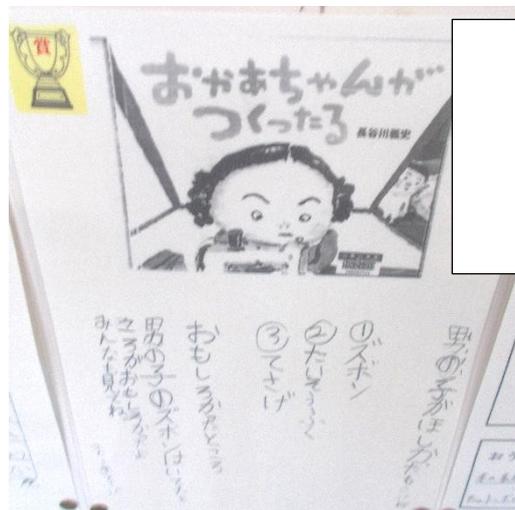
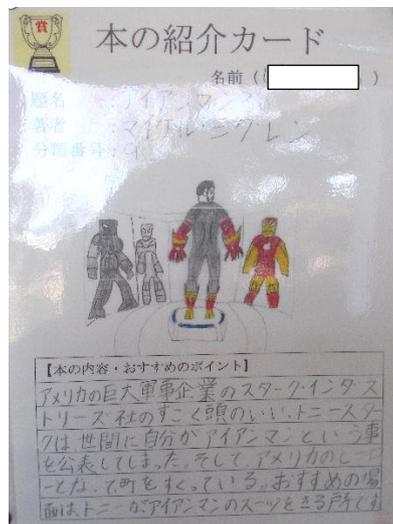
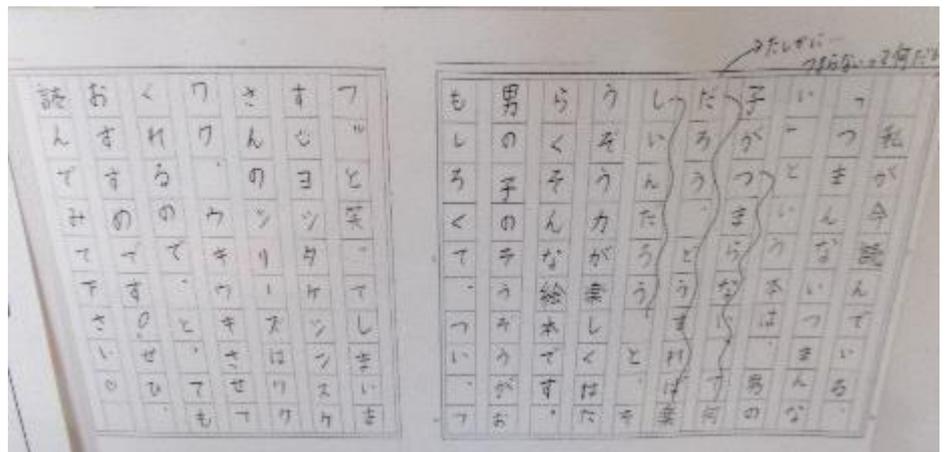
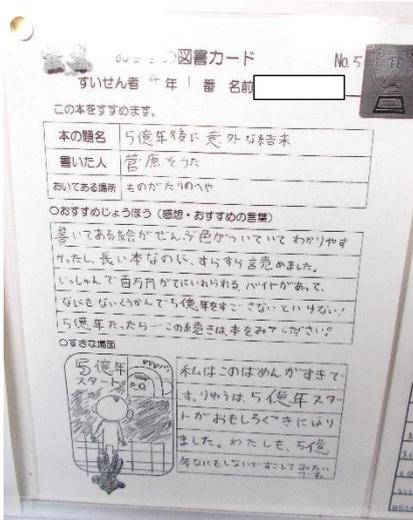
B) 1 ヶ月に 1 度, 読んだ本の紹介【書く力】

- ・作成 : 各学年
 - ・作成後, 各学年で掲示
- 掲示ファイルに入れる, 教室に専用コーナーを作成 (模造紙などにはる), ノートなどに書き, お互いに読み合う時間を設けるなど, 各学年の実態に合わせた形式で運用する。
- タブレット作成可

- ・低学年：読んだ本からクイズを作成する。(1年生は2学期以降、実態をもとに開始)
- ・担任は誤字脱字の確認を行い、ハンコなどを押して、掲示する。朱は入れない。
- ・作成完了後、高学年は、校長、中学年は教頭、低学年は学校司書に報告する。
3人が各学年のNo.1を選んでシールを貼る。(毎月No.1児童は変え、より多くの児童に渡るようにする。)その後、掲示。校長室だよりなどで紹介する。

(共通理解事項)

- ・基本的には短く要約していく方向で行った。
- 表現力を高める目的なので新聞形式などに変えるなど文字数制限がなくてもよい。
- ・学年の実態に応じたものや先生方の指導したものを随時取り上げ、紹介していく。
だから、基本学年によって形式がちがっても問題ない。



C) 電子図書館，移動図書館の利用推進，図書館での紹介【書く力】【読書意欲】

- ・電子図書館，移動図書館の利用を推進する。
 - ・年に1回，市立図書館の本の紹介を行う。(図書館との渉外：校長，教頭，図書担当)
→電子書籍，移動図書館を利用し，図書館の本を読み，読んだ本の紹介を行う。
- ※四街道図書館の図書カードを所持しているか児童に確認。保護者に図書カード作成依頼の文書を発行する必要がある。(年度始めに市立図書館から文書がでる。)

(共通理解事項)

- ・図書カード保管は各クラスの判断。(担任保管でも児童保管でも可。児童が週末に図書館に行く可能性もあるので，上手に対応すること。)

D) 学年に合わせたオススの本の紹介【読書意欲】

- ・作成 : 図書担当，学校司書，図書委員会児童
→本の選定は偏らないように図書担当が指導する。
- ・図書室のレイアウトを見直し，学年ごとのおススの本コーナーを作成する。



E) 上級生から下級生への読み聞かせ (8:10~8:25)

- ・6月から偶数月実施 (6年生→1年生 5年生→2年生 4年生→3年生)
- ・教室内，4か所に分かれて実施。実施個所は担当学年で相談し，変更しても良い。
- ・6年生は原則，毎月1年生に読み聞かせを行う。
- ・3月に下級生から上級生への読み聞かせ(普段と逆)を行う。

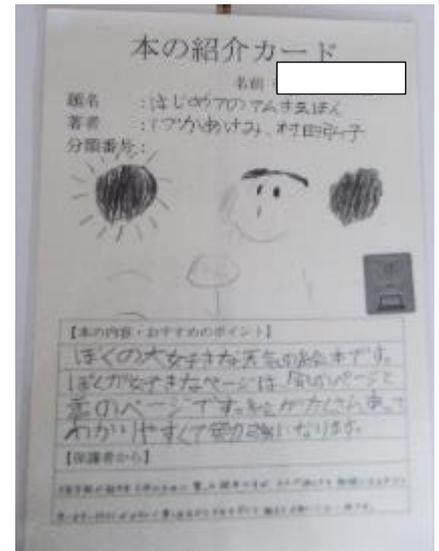
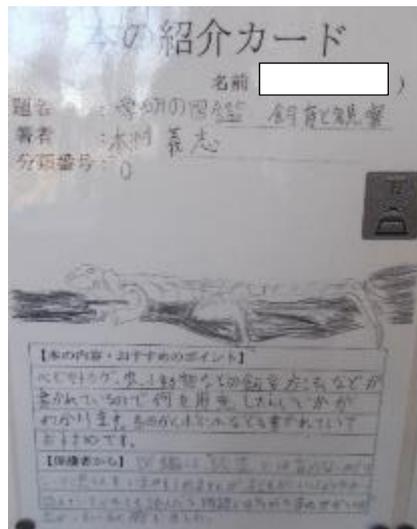
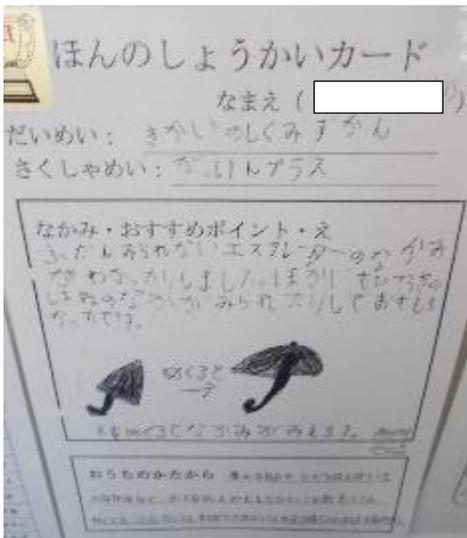


F) 学期に1度，先生方の読み聞かせ (8:10~8:25)

- ・図書室に各先生おススの本を置き，書評を書き，読み聞かせを行う。
- ・縦割り班で活動。班に先生が2人いる場合は，1人が読み聞かせを行う。1人が児童掌握をする。
- ・校長が毎週水曜日，1年生への読み聞かせを行う。

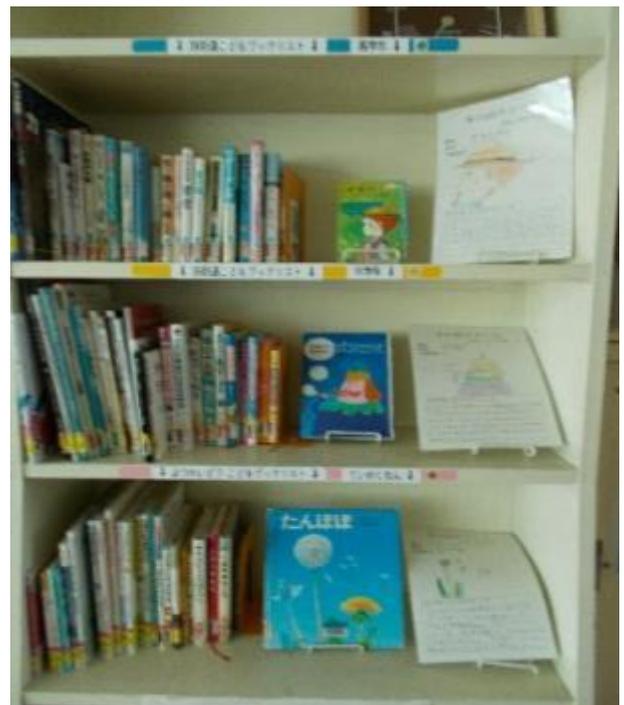
G) 長期休業中の本の紹介

- ・毎月行っている本の紹介に保護者からの感想・紹介を加えたワークシートを作成。保護者にも児童と同じ本を読んでいただき、同じワークシートに児童と保護者の感想・紹介を書く。その後、掲示を行う。



H) 図書委員会主催の読書祭りの企画・実施

- ・低・中・高学年でビンゴ用紙を準備し、1ヶ月間実施。
- ・マス目は多様な本に触れられるよう、図書担当の意見と図書委員会児童の意見を合わせたものを基準とした。
- ・管理職の許可を得て、図書予算の残額を利用し、「好きな本を買える抽選券」を設定した。令和3年度は抽選の結果、8冊の本を購入した。
- ・校長からも校長室だよりを通じて、取り組みの内容や現在の様子を紹介するよう依頼した。
- ・四街道市こどもブックリストが見つかりやすいよう、専用の棚を設けた。また、掲示も行った。



読書 DE ビンゴ！高学年

～秋の読書祭り～

年 1 組 名前

【ルール】

- ①ビンゴカードに載っている本を読んで、題名をマスに書き、図書委員からチェックをもらおう！
- ②1ヵ月【10月19日（火）～11月19日（金）】の間にできるだけ、たくさんビンゴできるように本を読もう！ビンゴの列に応じた景品ゲット！

【景品一覧】

- ・ 3 ビンゴ：本を1冊多く借りることができる券
- ・ 5 ビンゴ：読書週間スペシャルしおり
- ・ 8 ビンゴ：図書室に好きな本を買える抽選券（当たればその本が図書室に入る！…か）

【四街道こどもブックリスト 高学年向け（物語の部屋 廊下掲示）から一冊】	【四街道こどもブックリスト 高学年向け（物語の部屋 廊下掲示）から一冊】	【四街道こどもブックリスト 高学年向け（物語の部屋 廊下掲示）から一冊】
【図書委員・友達がオススメした本（女子更衣室・教室廊下掲示） _____さんのおススメ	【FREE！読書 DE ビンゴが始まってから自分が読んだ本を書こう！】	【図書委員・友達がオススメした本（女子更衣室・教室廊下掲示） _____さんのおススメ
【300ページ以上の本】	【分類番号2か3の本】	【マジックツリーハウスシリーズから1冊】

J) 各学年の工夫

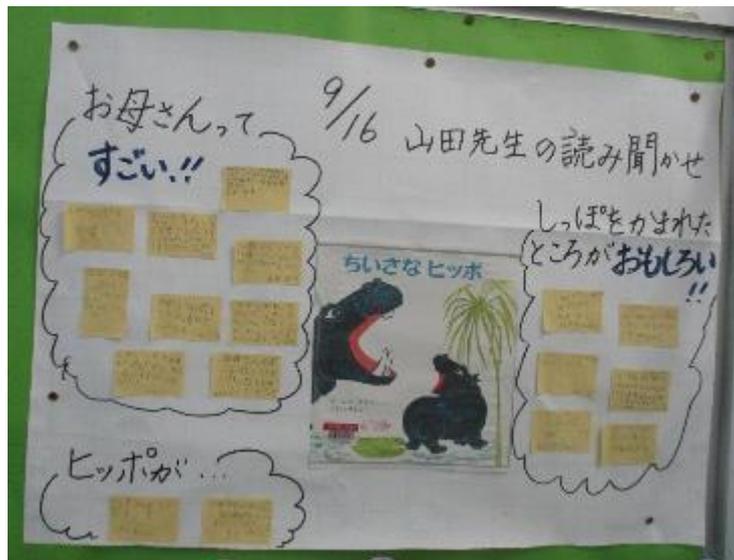
○第1学年

担任や校長が読み聞かせした本を汽車のように後ろに掲示し、記録した。



○第3学年の工夫

図書時間に司書教諭が読み聞かせをした本について、一言感想をふせんに書き、友達と伝え合って掲示した。その後、廊下にまとめたものを掲示し、誰でも見るようにした。



K) 図書の時間の設定

- ・全学年、年度始めに週に1度、国語（図書）の時間を設定。時間割にも明記する。
- この時間は10分でも良いので、図書室に足を運び、本の貸し借りをを行う。

日課時刻表						
		月	火	水	木	金
登校	7:40	朝の支度・読書				
読書	8:00	朝の会				
	8:10	朝の学習				
1	8:25	算数	算数	算数	算数	算数
	9:10					
2	9:20	体育	社会	国語	国語	理科
	10:05					
リフレッシュタイム						
3	10:20	国語	国語 (図書)	音楽・家庭	図工	理科
	11:05					
4	11:15	社会	外国語	家庭	図工・体育	社会
	12:00					
	12:45					
給食						
	13:10	昼休み	12:45~12:55 学年そうじ	昼休み	12:45~12:55	昼休み
	13:25	たてわりそうじ	12:55~13:30 のびのびタイム	たてわりそうじ	学年そうじ	たてわりそうじ
5	13:30	音楽	体育	外国語	理科	国語 (書写)
	14:15					
	14:15~14:25					
6	14:20	帰りの会	道徳	総合	学活	総合
	14:35~15:25					
	15:05					
	15:15	委員会・クラブ	帰りの会	帰りの会	14:30~14:40 帰りの会	帰りの会
下校	15:25	15:20	15:20	15:20	14:45	15:20
【6日程】3時間 給食なし		【A日程】4時間 給食あり		【5時間授業】5時間 給食あり		
※3校時まで通常日課		※給食まで通常日課		※5校時まで通常日課		
11:05~11:15 学年そうじ		12:50~13:05 たてわり清掃		14:15~14:25 帰りの会		
11:15~11:25 帰りの会		13:10~13:20 帰りの会		14:30 下校		
11:35 下校		13:25 下校				

5年生の時間割。

火曜日3時間目に「国語（図書）」となっている。

全学年、学校司書が勤務している日（山梨小学校だったら火曜日・木曜日）に合わせて、このような時間が週1時間ある。

時数に余裕のある低学年などは1時間、学校司書から読み聞かせを聞いたり、ゆっくり図書室などで本を読んだりする時間をとることもある。

時数に余裕のない高学年などでも、15分間程度とり、本の貸し出しや返却を行う時間となっている。

【授業実践】 詳細は資料編についてある指導案参照。

○第2学年 **国語科 図書館で本をさがそう「生きものクイズ」を作ろう**

図書室を探検し、生きものクイズを作った。クイズのワークシートを工夫し、答えを集めると「クイズ」になるようにした。

○第3学年 **国語科 「おすすめ図書」のCM作りをしよう!**

「四街道こどもブックリスト」(中学年)の中からおすすめ図書を選び、4人1組で本のCM作りをタブレット(ミライシード)で行い、全校に向けて発信した。

○第5学年 **国語科 「図書すいせん会」をしよう**

四街道市図書館と連携し、四街道図書館が行っている「電子図書館」の本を借り、その本に関する「帯」や「ポップ」を作成した。その後、市立図書館や市立図書館ホームページに掲載してもらった。

○第6学年 **国語科 ミニ・ビブリオバトルをしよう**

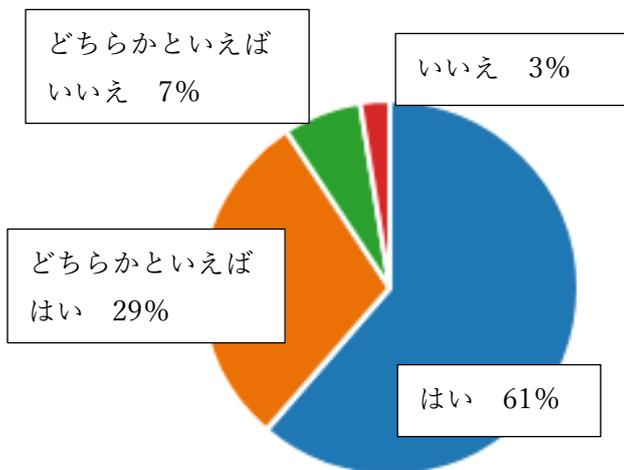
紹介したい本を選び、3分間で紹介を行った。予選、準決勝、決勝を経てチャンプ本を決めた。

(3) 仮説検証の結果と考察

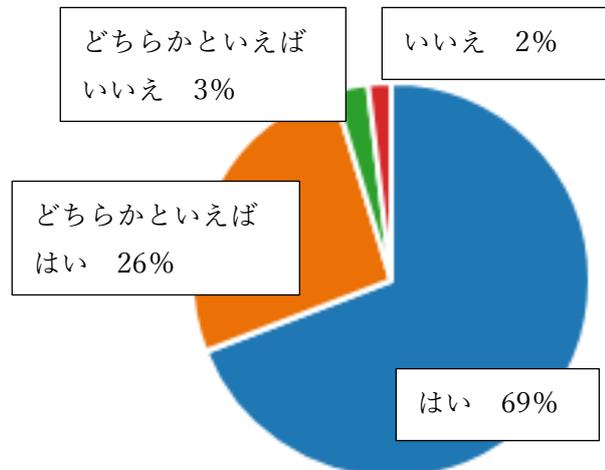
①児童のアンケート結果から(年度始め・年度終わりに実施)

質問項目【本を読むことは好きですか】

【年度始め】

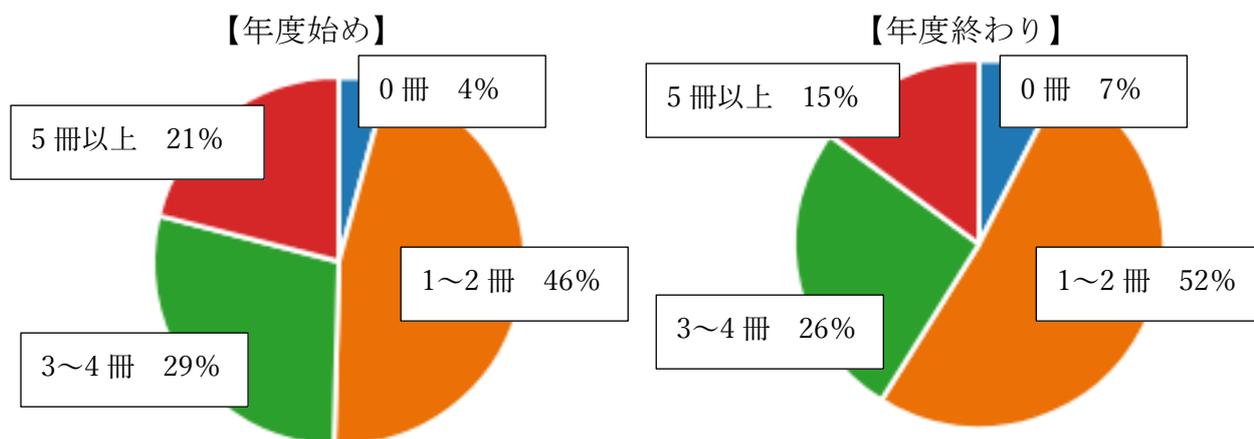


【年度終わり】



「本を読むことは好きですか」という質問に対し、「はい」「どちらかといえばはい」と肯定的に答える児童は、年度始めの90%から年度終わりには95%に上昇している。特に「はい」の数値に注目すると7%と大きく上昇しており、児童の読書意欲が向上していることが分かる。

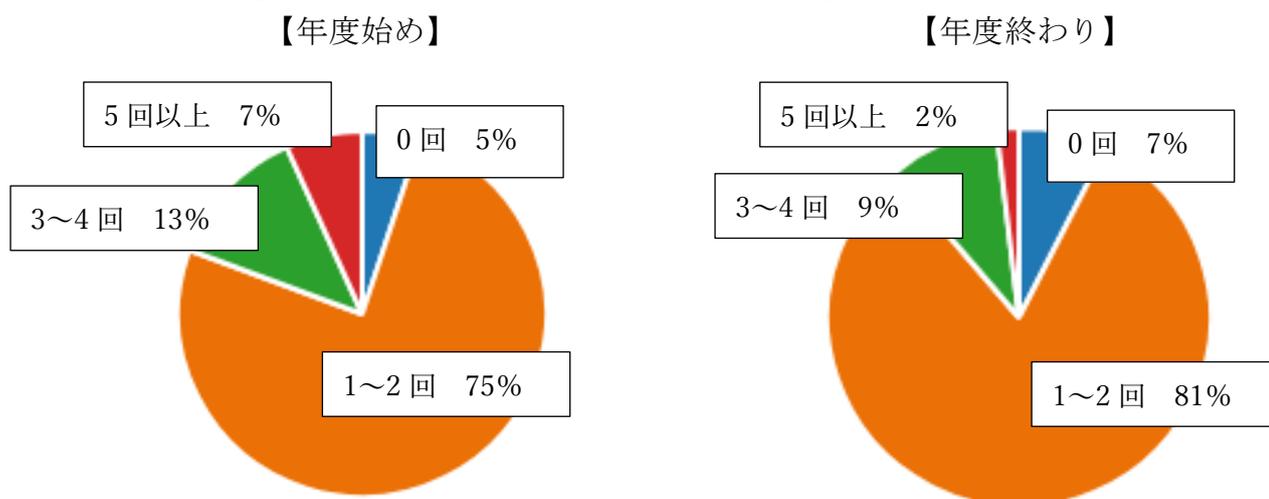
質問項目【1週間で何冊くらい読みますか】



「1週間で何冊くらい読みますか」という質問に対し、「1~2冊」の割合が増加している反面、全体的に読む冊数が減少していることがわかる。考えられる要因として、「読書貯金通帳」が挙げられる。低学年は冊数だが、中・高学年はページ数のため、自然と厚いページの本を読むようになり、結果冊数が減少したと考えられる。その点については、今後検証していきたい。

ただ、「0冊」と回答している児童も微増している。情報機器が発達している現在だからこそ、もっと読書の良さを啓発していく必要がある。

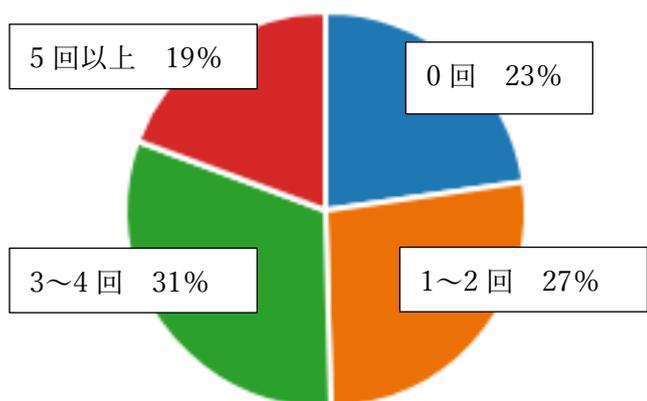
質問項目【図書室を週にどのくらい利用しますか】



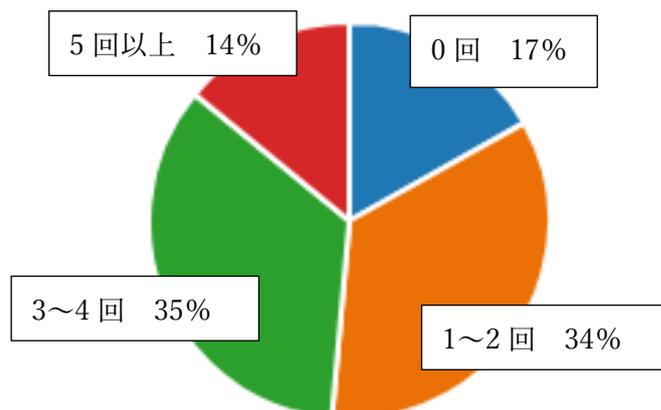
「図書室を週にどのくらい利用しますか」という質問に対し、「1~2回」という回答が増加していることが分かる。ただ、「3~4回」「5回以上」の割合が減少している。考えられる要因として前述した通り、厚い本を読む傾向が増えた結果、本の貸し出し・返却機会が減少したものと考えられる。

ただ、「0回」が7%と微増している。必ず週に一度は図書的时间があり、図書室での活動があるにも関わらず、数値が増えている。質問が悪かったのか「自発的には図書室に通っていない」ととらえた児童もいるかもしれない。質問項目を精選するとともに、週に1度の図書的时间がなくても、「自発的に」図書室に足を運ぶ児童をどう増やしていくかが課題となる。

質問項目【図書館を月にどのくらい利用しますか。(移動図書館・電子図書館含む)】
 【年度始め】

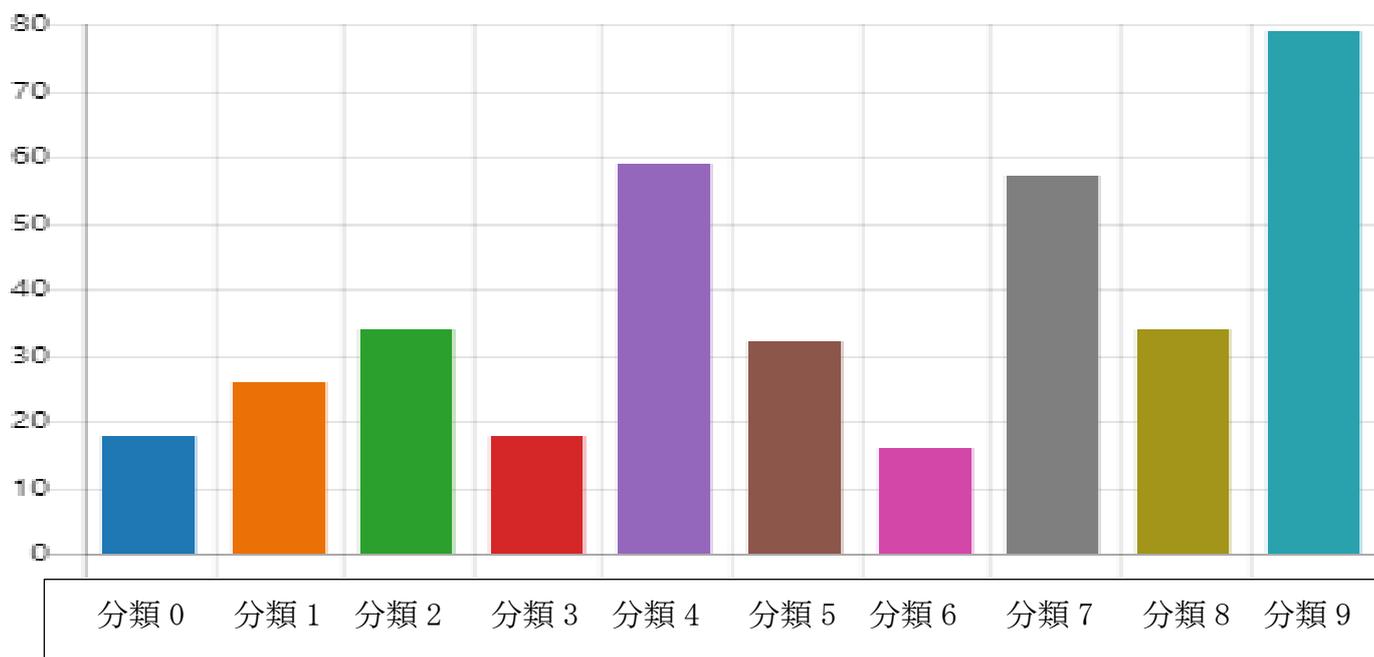


【年度終わり】

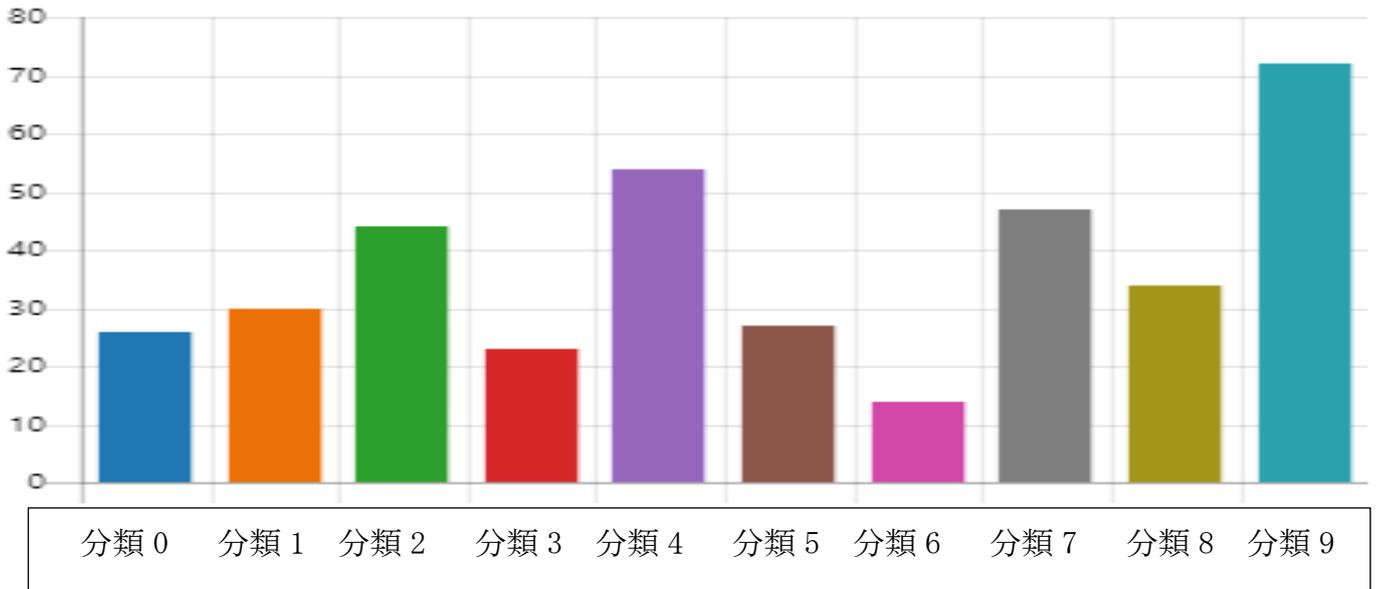


「図書館を月にどのくらい利用しますか。(移動図書館・電子図書館含む)」という質問に対し、「5回以上」の割合は5%と減少しているが、「0回」の割合も6%減少している。また、「1~2回」「3~4回」の合計割合が年度始めと比較し、「58%」から「69%」と大きく増加した。移動図書館が毎月きたこと、移動図書館を推進したことが割合の向上につながったと考えられる。

質問項目【今まで読んだ本のジャンルを教えてください】
 【年度始め】



【年度終わり】



(分類番号について)

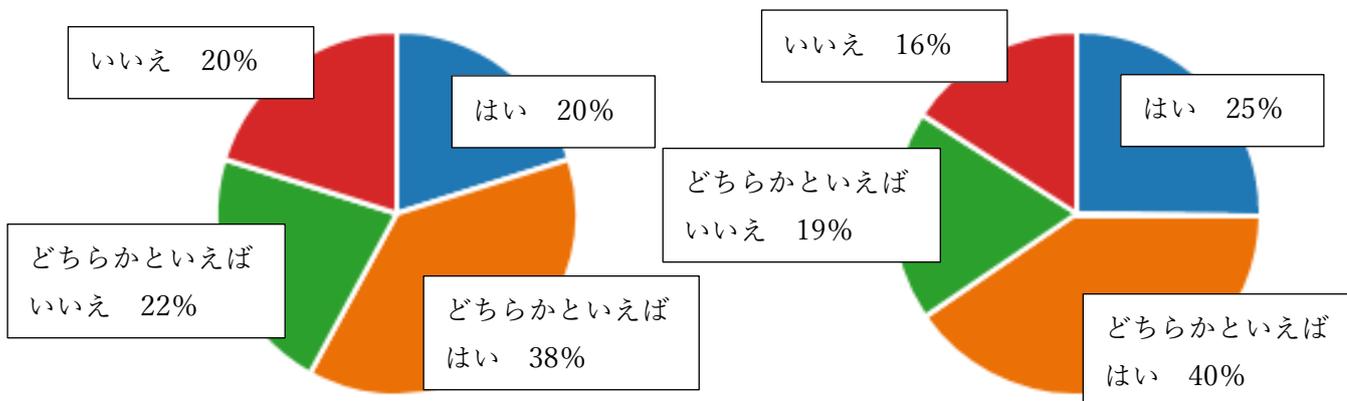
- | | | | |
|----------|--------------|--------|-----------|
| 分類0 総記 | 分類1 哲学 | 分類2 歴史 | 分類3 社会科学 |
| 分類4 自然科学 | 分類5 技術・工学・工業 | 分類6 産業 | 分類7 芸術・美術 |
| 分類8 言語 | 分類9 文学 | | |

「今まで読んだ本のジャンルについて教えてください」という質問に対し、年度始めは分類9、分類4、分類7が多かったが、年度終わりにはまんべんなく借りるようになり、分類0、分類2、分類3の数値が上昇している。分類9 文学が圧倒的に多いが、年度始めと比較すると読むジャンルが幅広くなっていることが分かる。要因として、図書委員会のおススメの本を月によって分類番号を変えて紹介したこと、教師側が授業などで図書室の利用を推進したためだと考えられる。

質問項目【本の感想を書くことは得意ですか】

【年度始め】

【年度終わり】



「本の感想を書くことは得意ですか」という質問に対し、「はい」「どちらかといえばはい」と肯定的に答える児童は、年度始めの58%から年度終わりには65%に上昇している。年間継続して本の紹介に学校全体が取り組んだことで、数値が向上したと考えられる。課題として、否定的な回答をした児童に対し、理由を聞くことで、検証・改善をしやすかった。

6 仮説に対する成果と課題

<成果>

- 年間で継続した取り組みを行ったことで、本を読むことが好きだという児童が増加した。
- 市立図書館と協力することで、市立図書館や電子図書館の利用が増加した。
- 本の紹介を全学年、継続して行うことで、様々なジャンルの本を読むきっかけとなった。
また、本の感想を書くことへの苦手意識が低くなった。
- ◎以上から、読書貯金通帳の活用や、本の紹介、読み聞かせなどの取り組みを年間継続して行うことで、思考力・判断力や主体性の向上につながったものとする。これは本研究主題である「主体的に読み、考え、表現する児童の育成～学校図書館の利活用を促進し、読書意欲を高める指導の工夫～」につながるものである。つまり本仮説は有効であったといえる。

<課題>

- 年間継続して行うためにも、図書主任を中心とした定期的な声掛けや、ワークシートの準備が必須である。作成したワークシートを保存するだけでなく、先生方の知恵を借りて、よりよいもの、使いやすいものを作り上げていくことが大切である。1度作ってしまえば、何度も使えるのだが、最初に作るには時間が必要であり、先生方への負担につながる面もある。
- 学校司書との連携も必須である。特に読書貯金通帳は、年度ごとに新しいものを渡す場合、さらなる作成の時間が必要である。今の形式にこだわらず、「誰でも」「簡単に」「すぐできる」ものを準備するために、より読書貯金通帳の改良を図っていきたい。
- コロナ禍ということもあり、学校規模によっては、児童同士の読み聞かせが難しい場合もある。しかしながら校内でもオンラインを活用できる状況にあれば、オンラインでの読み聞かせで代用することもできる。市内の学校では、オンラインで読み聞かせを行った学校もあり、児童にも好評だったようだ。

7 主な参考文献

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編」 東洋館出版社 2018
- ・子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究～「読書離れ」の実態と、「読書好き」を育てるヒント～国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 2021
- ・学校教育の充実のためのホームページ 千葉県教育委員会 2022.3.11 更新
- ・学校図書館活用実践報告集－平成29年度－ 神戸市教育委員会 2020
- ・千葉県子どもの読書活動推進計画（第4次） 千葉県教育委員会 2020
- ・四街道市子ども読書活動推進計画（第4次）～読書で拓く 子どもの未来～ 四街道市教育委員会 2021

資料編



1 単元名 図書館で本をさがそう 「生きものクイズ」を作ろう

2 単元の目標

- ・読書に親しみ、いろいろな種類の本があることを知ることができる。 [知識及び技能] (3)エ
- ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C(1)ウ
- ・共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2)ア
- ・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け, 必要な事柄を集めたり確かめたりして, 伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] B(1)ア
- ・自分の思いや考えが明確になるように, 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] B(1)イ
- ・言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 [学びに向かう力, 人間性等]

3 本単元における言語活動

- ・学校図書館などを利用し, 図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み, 分かったことなどを説明する活動。(関連: [思考力, 判断力, 表現力等] C(2)ウ)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は, 上記単元の目標を踏まえ, 図鑑や科学的なことについて書いた本などを讀んだり, 分かったことなどを説明したりする言語活動を設定した。二年生になると, 一年生の時に比べて児童の読書への意欲も高まり, 読書量も飛躍的に増大する。図書館の利用にも慣れ, 自分で本を選んで読書を楽しめるようになる。また, 物語の絵本や読み物を楽しむとともに, 植物の育て方や虫の飼い方を知りたいなど, 興味のあることやわからないことについて詳しく知りたい, 本で調べてみようという気持ちも芽生えてくる。

『図書館で本をさがそう』では, 図書館にあるたくさんの本の中から, 自分の目的に合った本を見付ける方法を学習する。本の題名のほか, 書架の案内表示やマップなどをみて本を探す方法があることに気づかせる。そして, 実際にそれらの方法を使って, 自分が調べたいことや読みたいテーマの本を探して読むことができるようになることをねらっている。本の探し方は, 今後, 図書館を利用していくうえでの基礎となる。

また, 『「生きものクイズ」を作ろう』では, 自分の伝えたいことを, 図書資料を活用して調べ, クイズ作りを行う。クイズ作りをとおして, 「問い」と「答え」の関係や, 「何が」「どうする」の対応を理解して書くことをねらいとして設定した単元である。

『すみれとあり』の学習や生活科の学習と関連させると効果的である。図書資料を活用して情報を集める際には, 科学読み物や図鑑と出合わせ, その使い方を指導し, 今後の学習で活用できるようにする。

(2) 児童の実態 (省略)

(3) 指導観

指導にあたって、図書室は目的をもって図書を探ることができる機能をもっていることに気付かせる。自分が読みたい本はどこに配架されているかを知ること、4年生の「分類をもとに本を見つけよう」の学習につなげていく。その際、日本十進分類法は4年生での学習事項であるので深くは掘り下げず、2年生の児童の実態に合わせ、「4 自然科学」「9 文学」を取り上げ、分類記号が存在していることに気付かせる程度に留めておく。

そのために、児童が探検感覚で図書室を学習に利用できるようなワークシートを使用して学習させる。ワークシートが完成すると、次の活動につながるキーワードが出てくるようにして、次時への期待をもたせたい。

また、学校司書と関わる場面を設定し、自分が求めている本が見つからない時は、司書に聞くとよいことを体験的に理解させたい。

本学級は、学力が低く理解に時間を要する児童が約半数を占める。本時の活動では、4名1組のグループで行動させ、相互に補い合うようにして学習を進められるようにしたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ ②共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	①文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ②経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ③自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	①積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の探し方を知ろうとしている。 ②積極的に必要な事柄を集めたり確かめたりし、学習の見通しをもって「生きものクイズ」を作ろうとしている。

6 指導と評価の計画 (全8時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1 本 時	○単元名を読み、学習の見通しをもつ。 1. 図書館で目的の本を探すための方法を知る。	・学習したことから発展させて、調べたいことを引き出す。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> [知識・技能①] ワークシート① ・ワークシート設問の回答 </div> ①積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の探し方を知ろうとしている。(観察)
	2	2. 自分が調べたり、読んだりしたいテーマの本を探して、読む。	・本が「置いてある場所」は、本の種類や場所を意識させる。	

第二次	3	<p>3. 「生きものクイズ大会」をすることを知り, 学習の見通しをもつ。</p> <p>4. 自分がクイズにしたい生き物を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P58を参考に学習計画を立てる。 ・生活科で育てている物や見たことがある生き物を出し合って, 一つ選ぶ。 	<p>②共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>②経験したことや想像したことなどから書くことを見付け, 必要な事柄を集めたり確かめたりして, 伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>③自分の思いや考えが明確になるように, 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)</p>
	4	<p>5. クイズにしたい生き物について, 詳しく調べる。</p> <p>(1)図書館を使って調べる方法や図書資料から情報を集める方法を知る。</p> <p>(2)図書資料を活用して調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本の分類や題名, 作者名を手がかりに本を探させる。 ・目次や索引の使い方, 出典を明記することを指導する。 ・図書資料を活用して情報を集めることができるようにする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[思考・判断②] ワークシート②</p> <p>・クイズの内容や構成についての記述</p> </div> <p>②積極的に必要な事柄を集めたり確かめたりし, 学習の見通しをもって「生きものクイズ」を作ろうとしている。</p>
	5	<p>6. クイズにしたい内容を選び, メモに書く。</p> <p>7. 「生き物クイズ」を作る。</p> <p>(1)クイズの形式を知り, 何がどんな順番で書かれているかを考える。</p> <p>(2)「問題」「答え」「説明」に書くことを決める。</p> <p>(3)クイズを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題と答えは短く, 説明を詳しく書くと, 新しいことがわかっておもしろいクイズになることを確認する。 	
	6	<p>8. 作ったクイズを読み返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズの「問題」と「答え」が対応しているかを確認し, していなければ修正する。 	
	7	<p>9. 「生きものクイズ」を出し合う。</p> <p>(1)クイズを出し合う。</p> <p>(2)友達のクイズの「すごい」を探しながら聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正解, 不正解よりも, 「説明」に児童の意識が向くようにする。 	
	8	<p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・P61の「ふりかえろう」や「ここが大事」を読み, 単元の学習を振り返る。 	

6 本時の指導 (1/8)

(1) 評価規準

- ・読書に親しみ, いろいろな本があることを知ることができる。

[知識・技能]

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
2	1 単元名を読み，学習の見通しをもつ。	・単元名が「本でしらべてしょうかいしよう」であることを確かめる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 図書室で本をさがすほうほうをしらべよう。 </div>		
3	2 これまでの学習を想起し，さらに知りたくなったことや興味をもったことを発表し，調べるための方法を話し合う。	・学習したことから発展させて，調べたいことを引き出す。 ・調べるためにはどうすればよいかを考えさせる。	
5	3 例として，「あり」についての本を探す方法を話し合う。	・教科書 P54・55 の挿絵を見て，目的の本を探すための方法を話し合わせる。	
3 5	4 物語の部屋・調べの部屋へ移動し，学校図書館で本の配架の仕方を調べる。	・設問の回答や学校図書館の配置図をワークシートに書かせる。 ・学校司書に聞いて本を探す方法もあることに気づかせる。 ○いろいろな本があることを知ることができたか。(ワークシート、観察)	ワークシート

7 板書計画

- ・としよう
- ・ずかん
- ・インターネット
- しらべるほうほう
- ・ミニマト
- ・すみれとあり
- ・きつねのおきやくさま
- ・いなばのしろうさぎ
- ・たからもの
- ・わにのおじいさんの

学しゅうしたこと
 図書しつで本を
 さがすほうほうを
 しらべよう。

【成果】

○児童の関心を高めるように，図書室探検を行い，クイズのワークシートを工夫して作った。読書意欲を高めることができ，たくさん読んだ本の中から，進んで生きものクイズを作ることができた。

○図書館の仕組みを学習したことで，児童が学校図書館から借りて読書する本の種類が，以前よりも多様になった。

【課題】

●本時を終えたところでクイズ作りをしよう，という指導計画であったが，最初からクイズ作りを目的として設定し，そのために図書館の仕組みを学習するという目的意識をもたせた指導計画にしてもよかった。

●一年生の頃から学校司書の先生に親しんでいるので，司書としての役割を知ってもらうような学習内容を入れてもよかった。

1 単元名 「『おすすめ図書』のCM作りをしよう！」

2 単元の目標

- ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
[知識及び技能] (3)オ
- ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ア
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
[学びに向かう力、人間性等]

3 本単元における言語活動

- ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
(関連：[思考力、判断力、表現力等] C(2)イ)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝えあったりする言語活動を設定した。児童はこれまでに、お話のおもしろいところを話したり、好きな場面を絵にしたりするなどの本の紹介活動に取り組んできた。また、3年上で学習した『本で調べよう』では、わかったことや感想をノートに記録するとともに、友達の「読書カード」から興味をもった本を読む活動も行った。このような紹介活動を通して、児童は読書の幅を広げてきている。この時期の児童は、基本的に本を読むことが好きである。多くのよい本や楽しい本に出会い、読書の世界をさらに豊かにしていくことが大切である。

「『おすすめ図書』のCM作りをしよう」では、4人1組で作ることとし、「おすすめ図書」をクラスで4冊選ぶ。CMには、①本のおすすめ理由②おもしろい場面③作者について④シリーズの他の本などを入れて作らせた。4人で役割分担を決めるが、互いに協力して作ることとする。「CM」を作ることで、本のおもしろさやよさを再確認したり、作者やシリーズ本に意識が向いたりするだろう。また、できたCMを見合う活動や「おすすめの図書」を手がかりに、さらにさまざまな本にふれ、読書の楽しさを味わわせ、読書意欲を高めていきたい。

(2) 児童の実態 (省略)

(3) 指導観

図書委員会主催の「読書祭り」と「3年1組読書祭り」を同時開催し、「ビンゴカード」(枠には分類やページ数に決まりがあるものも含む。)に取り組むことで、いろいろな本に触れさせる。「3年1組読書祭り」の本は、「四街道こどもブックリスト」から選ばせるようにする。今までその存在すら知らなかった児

童も多く、その存在を知ってもらうと同時に、中学年で読んでもらいたい本に触れ、読書の幅を広げてほしい。今まで手にしなかった本が意外と面白かったり、シリーズで読んでみたくなったりすることを期待したい。そして、「おすすめ図書のCM作りをしよう」と呼び掛け、作ったCMを学習後、全校に放送することで児童の学習への意欲を高めたい。今回は、学校司書との連携で、市立図書館から、「四街道こどもブックリスト」の本を30冊借りて、教室に置き、児童が手にとりやすいようにした。

児童は、タブレットに関心が高く、ローマ字の学習が終わる前から、タブレットのローマ字入力ソフトに取り組んでいる児童が半数以上いる。「総合的な学習の時間」では、「春・夏の自然観察会」「小名木川調査」の発表についてプレゼンテーションソフトにまとめた。今回は、「おすすめ図書のCM」をプレゼンテーションソフトにまとめることで、さらに意欲的に取り組めるようにしたい。ローマ字入力に苦手意識を感じている児童には、手書き入力でもよいこととする。

「おすすめ図書」を紹介する内容については、3年生になって取り組んできたワークシートを使用し、何を書けばよいのか、見通しをもたせやすくする。今まで書いてきた「おすすめ図書」でクラス代表に選ばれた児童の例を手本とすることで、どんな内容が「読みたくなる」のかを考えさせるようにしていきたい。

CMは、4人1組で協力して作る。そのため、クラスで「おすすめ図書」4冊を選ばせ、さらに4冊の中から希望する本をそれぞれ書かせる。グループのメンバーについては、児童の希望する図書を聞いた上で、担任が児童の人間関係、支援を要する児童の配置などを考え、決定する。CM作りの中で、グループ毎に一度発表し合う機会を設ける。互いに良い点・見直した方がよい点について感想を伝え合う。伝え合うことを通して、文章を読んで感じたことを共有したり、一人一人感じ方が違うことに気付いたりすることができるだろう。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 ((3)オ)	① 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ② 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ③ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	① 積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって「おすすめ図書」を選ぼうとしている。 ② 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、「おすすめ図書」のCMを作ろうとしている。

6 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「3年1組読書祭り」を開く中で、「おすすめ図書」のCM作りをすることを伝え、学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の幅を広げるために、「四街道子どもブックリスト」の中から読む本を選ばせることにする。 ・「3年1組おすすめ図書」のCMを作り、全校に発信することを伝え、学習への意欲を高める。 	<p>[知識・技能①]</p> <p><u>観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめ図書」を探して、本を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書祭り」として、ビンゴカード（※枠には、分類を指定したところもある）を用意し、いろいろな本を読ませるようにする。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p><u>ビンゴカード</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読書祭り」への取り組み
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・本を選び、おすすめの理由やおすすめの場面などをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4人1組で「おすすめ図書のCMを作る」ことを伝え、「おすすめ図書」を4冊選び、どの本のCMを作るのかを決める。 ・今まで使ってきた「おすすめの図書」カードを使用する。 ・過去にクラスの代表として選ばれた児童のカードから、どんな点に気を付ければ「読みたくなる」内容になるのかを考えさせる。 	<p>[思考・判断・表現①②]</p> <p><u>ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめ図書」カードへの記述
	4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめの図書」のCMをタブレットで作る。 ・作成したCMの推敲、修正を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CMには、①おすすめ理由②おすすめの場面③作者について④同じ作者の他の本、シリーズの他の本、などを入れさせ、どの部分を担当するのかを決めさせる。それぞれ15秒を目安とし、全体で1分程度にさせる。 	<p>[思考・判断・表現①]</p> <p><u>タブレット・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめ図書」のCMの内容 ・CMの推敲・修正の様子 <p>[主体的に学習に取り組む態度②]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめ図書」のCM作りの様子
第三次	7 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめの図書」のCMを見合い、感想を伝えあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CMの「良いところ」（ピンクの付箋）「見直した方がいいところ」（ブルーの付箋）に書かせ、発表し合い、互いのCMの良さや課題に気付けるようにする。 	<p>[思考・判断・表現③] <u>発表・付箋</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・CMを見た感想の記述

8	<ul style="list-style-type: none"> グループ毎にCMの推敲・修正を行い、できたCMを見合う。 学習の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 付箋を再確認させ、課題を解決させる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度②]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おすすめ図書」のCMの推敲・修正の様子
---	---	--	--

※読書の時間は朝の時間や休み時間、家庭学習などを活用する。

※学習後、給食の時間に各クラスのテレビに配信する。

7 本時の指導

(1) 評価規準

- 「おすすめ図書」のCMを見合い、感想を伝え合うことで文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 [思考・判断・表現]

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
3	1 本時の学習と学習のめあてを知る。		おすすめ図書の表紙
28	2 (1) グループ毎の「おすすめ図書」のCMを見る。 (2) CMの「良かったところ」(ピンクの付箋)と「見直した方がよいところ」(ブルーの付箋)を書く。 <付箋に書く例> ピンク…おすすめの内容がよく伝わった、好きな場面がよく伝わった、人によって好きな場面は違うのだなということが分かった、画面が分かりやすかった、作者についてよく分かった、他の本も読んでみたくなる内容だったなど ブルー…【①おすすめ理由②好きな場面③作者について④シリーズなど】の中でわかりづらい画面、画面の文を短くした方がいい、画面をわかりやすく工夫した方がいいなど	<ul style="list-style-type: none"> 4人1組で行う。 付箋には、CMの内容について書くようにさせる。 付箋にどのような内容を書けば良いのか例を挙げ、書きやすいようにする。 <p>○発表・付箋【思考・判断・表現③】</p> <p>《「努力を要する」を判断した児童への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋には①～④(①おすすめ理由②好きな場面③作者について④シリーズなど)のうち、わかりやすかった、わかりづらかった番号だけでも書くようにさせる。 	タブレット テレビ 付箋(ピンク・ブルー)
7	(3) 付箋に書いたことを発表する。 ※(1)～(3)を4グループ繰り返す。		
7	3 付箋をもう一度グループ内で見合い、内容について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 付箋を発表させながら、同じ内容のものをまとめて表紙画像に貼るようになる。 	

	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直す点についてノートにそれぞれ書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋をもう一度見合い、話し合うことで良かった点や見直した方がよい点を再確認させる。 ・何を見直せばよいのか、それぞれ書かせることで本時の学習を振り返らせる。 	
--	---	--	--

(3) 板書計画

④

おすすめ図書の表紙の画像

「三年一組おすすめ図書」の
CMを見合って感想を伝え
合おう。

【成果】

- クラスで行った図書祭りのワークシートは、ビンゴカードになるように工夫して作った。児童は進んで取り組むことができ、「四街道こどもブックリスト」30冊のほとんどを読むことができていた。それによって、いろいろなジャンルの本を読むことができていた。
- 「四街道こどもブックリスト」の中からおすすめ図書を選び、4人1組で本のCM作りをタブレット（ミライシード）で行い、全校に向けて発信した。CM作りを通して、本のおもしろさや良さを再確認したり、作者やシリーズ本に意識を向けたりすることができた。

【課題】

- 読書を進めるにあたって、ページ数が多い本を手にする児童が少なかった。どの本にも関心が高まるような工夫ができるとよかった。
- タブレット（ミライシード）の機能で、シートのスライドや音声入力（雑音が入らない環境作り）が難しかった。

1 単元名「ミニ・ビブリオバトルをしよう」

2 単元の目標

- ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。
[知識及び技能] (1) オ
- ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
[学びに向かう力、人間性等]

3 本単元における言語活動

友達に読んでほしい本を紹介する。

(関連：[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、友達に読んでほしい本を紹介する言語活動を設定した。ここでは、読んでほしい本を伝えるために、どうしたら相手に興味をもってくれるか、構成を考え、プレゼンテーションを行う。興味のもたせ方は、様々なアイデアがでると思うが、大事なのは「相手意識」であり、オススメする本をよく読み、資料を活用しないと自分の本が選んでももらえない内容になっている。本学習は、中学校第1学年の「言語活動例 ウ 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動」につながる。

また、自分が知らなかった本について興味をもつ良いきっかけになる内容でもある。友達の紹介を聞くことで、発表の仕方や構成の立て方だけでなく、「紹介した本」に興味をもつことで、知識及び技能を高めるだけでなく、進んで読書をしようとする意欲も育つと考える。

(2) 児童の実態 (省略)

(3) 指導観

指導にあたって、まず「ミニ・ビブリオバトル」の目的と方法を理解してもらうために、実際の映像資料を活用する。目的を「図書室にある本で、6年1組がもっともオススメする一冊を決定する」とし、優勝児童の発表を全校に流すとともに、図書室に本を掲示すると伝える。目的を明確にすることで、児童の意欲向上が期待できる。

発表原稿を作り上げる際、相手に伝わりやすくする工夫を具体化して紹介するとともに、途中の段階で児童が考えた優れた方法を全体で共有していく。一方で、「書くのが苦手」「内容の要約が苦手」という児童のために、作成手順と記入例を載せたワークシートを用意しておく。

発表資料作成時や、練習時にはICTの活用を積極的に行う。一方で、ICTのみにならないよう、こちらで提示したいくつかの方法を児童が選択することで、様々な手段にふれ、今後の学習の広がりにつながるよ

うにしたい。

本学級には、外国籍児童と学力が低く、自分の思いを表現することを苦手としている児童が合計3名いる。作成手順と記入例を載せたワークシートを準備し、穴埋め形式にするなどして児童の困り感を解消できるようにしたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること に役立つことに気付いている。 (1)オ	①文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げようとしている。 C(1)カ	①言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとしている。

6 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一 次	1	・ミニ・ビブリオバトルに関する基本的な知識とルールを知る。	・聞き手を引き付けるためにどのような工夫をしていたのかを確認する。 ・「ミニ・ビブリオバトル行う」という目的を確認し、どんな学習が必要なのかを考えさせ、計画を立てさせる。	[知識・技能①] <u>ワークシート</u> ・動画に対する感想の記述
第二 次	2	・聞き手に分かりやすい説明の構想を練る。	・次の観点を示して、本と照らし合わせながら、書かれている内容を読み取らせる。 ①タイトル、作者などの基本情報。どのようにしてこの本に出会ったのか。 ②本のあらすじ、感想、特にお勧めしたいポイント。 ③まとめ。特に伝えたいこと。	[思考・判断・表現①] <u>ワークシート</u> ・説明の並び順とその順序にした理由
	3	・ミニ・ビブリオバトルで使用する資料の作成を行う。	・2時間目で書いた構想を文章にする。 ・必要な文言や数値などを引用したり、実物や画像などを用いたり、図解したものや重要な語句の定義づけなどを示したりするよう指導する。	[思考・判断・表現①] <u>ワークシート</u> ・説明を補足したり、伝えたいことを強調したりするための資料の選択とその理由
	4 本 時	・作成した資料の推敲、修正を行う。	・分かりやすかった点、分かりづらかった点を付せんに書かせる。 ・声の大きさなど発表に関するだけでなく、2校時に挙げた内容を中心に見直すよう指導する。	[思考・判断・表現①] <u>付せん</u> ・発表を聞き、相手の良いところと修正した方がよいところへの記述とその理由

	5	・必要な情報を聞き手に分かりやすく正確に伝える練習を行う。	・タブレットや画用紙などを活用し、発表の練習や振り返りを行う。	
第三次	6	・ミニ・ビブリオバトル予選，準決勝を行う。	・予選は1人発表。発表者を含めた3人×6グループで行う。 →準決勝進出者は6人。 ・準決勝は2人発表。発表者を含めた6人×3グループで行う。 →決勝進出者は3人。 ・質問，感想は付せんを活用するよう指導する。	[思考・判断・表現①] <u>観察</u> ・推薦する根拠を明確にし，自分の考えが伝わるように意見を工夫している様子
	7	・ミニ・ビブリオバトル決勝を行う。 ・学習の振り返りを行う。	・決勝は3人発表。学級全体で行う。 ・質問，感想は付せんを活用するよう指導する。	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>ノート</u> ・学習に対する感想の記述

※適宜資料を見直したい場合は，朝の学習の時間を活用する。

7 本時の指導

(1) 評価規準

友達の発表を聞き，相手の発表がよりよくなるよう付せんに意見を記入している。

[思考・判断・表現]

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	1 本時の学習と学習のめあてを知る。		
	ミニ・ビブリオバトルを体験し，よりよいものにしよう。		
30	2 グループでミニ・ビブリオバトルを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・3人1組で行う。 ・発表3分間。助言の時間を6分とする。 ・青い付せんには「良かったところ」，赤い付せんには「直した方が良いところ」を書くよう指導する。 ・声の大きさなど発表に関することだけでなく，2時間目に挙げた内容を中心に見直すよう指導する。 ・助言の時間が終わるたびに，良い批評が書けていた児童に発表するよう指導する。 	付せん (青赤) タイマー 助言用 ワークシート

10	3 本時の学習を振り返る。	<p>○付せん [思考・判断・表現]</p> <p>《「努力を要する」を判断した児童生徒への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に、付せんではなく、教師が用意したワークシートに記入するよう指導する。 ・「良かったところはどこか。」 「何を直したらよいか。」をワークシートに記入する。 <p>・ノートに書いた内容を発表するよう指導する。</p>	ノート
----	---------------	---	-----

(3) 板書計画

<p style="text-align: right;">学</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>ミニ・ビブリオバトルを体験し、よりよいものにしてしよう。</p> </div> <p style="text-align: center;">3人1組 発表の時間 3分間 助言の時間 6分間</p> <p style="text-align: center;">青い付せん↓良かったところ 赤い付せん↓直した方が 良いと感じた ところ</p> <p style="text-align: center;">〈良い批評例〉</p> <p style="text-align: center;">.</p> <p style="text-align: center;">本番に向けて頑張りたいこと</p> <p style="text-align: center;">.</p>
--

【成果】

○紹介したい本を選び、3分間で紹介を行った。本の内容や読みたくなる工夫がされているか、本時では、実際に友達に発表し、意見をもらう活動を行った。もらった意見をもとに各自が見直しを行い、予選、準決勝、決勝を経てチャンプ本を決めた。

○友達から紹介された本に興味をもち、紹介された本を借りる児童が増えた。今まで知らなかったジャンルに興味をもつことができた。

【課題】

●事前に「ビブリオバトル」の様子を見せないと、ただの本の紹介になってしまうので、実際の映像を見せないと効果がない。しかし時数的には厳しい。

●適切なアドバイスを送るのを難しいと感じる児童がいた。教師の方で適切なアドバイスの例をもっと明確にするべきだった。

1 単元名「図書すいせん会をしよう」

2 単元の目標

- ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。

[知識及び技能] (3) オ

- ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる

[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ

- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

3 本単元における言語活動

多くの人に読んでほしい本を紹介する。

(関連：[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、読んでほしい本を紹介する言語活動を設定した。ここでは、おすすめの本を読んでもらうために、相手の興味を引き出す構成を考え、帯・ポップの作成を行う。興味のもたせ方については、様々なアイデアがでると思うが、大事な点は「相手がいる」点であり、おすすめする本の内容を、興味を引くような表現にすることで、選んでもらえる表現ができるようにする。

本学習は、中学校第1学年の「言語活動例 ウ 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動」につながる。

また、今回の学習は自分が知らなかった本について興味をもつ良いきっかけになる内容でもある。友達の作品をみることで、構成の立て方だけでなく、「友達が紹介した本」に興味をもつことにつながる。自分が選んだ本だけでなく、興味をもった「友達が紹介した本」も読むことで、知識及び技能を高めるだけでなく、学びに向かう力、人間性等も高まると考える。

(2) 児童の実態 (省略)

(3) 指導観

指導にあたって、まず「新聞」「ポスター」「帯」「ポップ」の内容と目的を理解してもらうために、実物や画像を複数活用する。目的を「電子図書館の本を新聞や、ポスター、帯、ポップなどで紹介し、多くの人に読んでもらおう」とし、作品を学校図書館や図書館ホームページなどに掲示することを児童に伝える。一人一人が目的を明確にすることで、児童の意欲向上が期待できる。

相手の興味を引き出すための文章を考え、作品を作り上げるために、実物や画像、教科書を中心に相手に伝わりやすくする工夫を確認するとともに、途中の段階で「興味を引くセリフを抜粋している。」「本の内容に沿ったイラストを入れている。」「本の内容が分かりやすい要約をしている」など、児童が考えた優れた方法を全体で共有していく。

一方で、「書くのが苦手」「内容の要約が苦手」という児童のために、作成手順と記入例を載せたワークシートを用意しておく。

本学級には、学力が低く、自分の思いを表現することを苦手としている児童が3名いる。作成手順と記入例を載せたワークシートを準備し、穴埋め形式にするなどして児童の困り感を解消できるようにしたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること に役立つことに気付いている。 (3) オ	①文章を読んでまとめた意見 や感想を共有し、自分の考 えを広げている。 C(1)カ	①言葉がもつよさを認識すると ともに、進んで読書をし、国 語の大切さを自覚して思いや 考えを伝え合おうとしている。

6 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一 次	1	・推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会を開く」という学習内容をとらえ、学習の見通しをもつ。	・読者を引き付けるためにどのような工夫をしていたのかを確認する。 ・「市立図書館に掲示する」というゴールを確認し、どんな学習が必要なのかを考えさせ、計画を立てさせる。	[思考・判断・表現①] <u>ワークシート①</u> ・「帯」「ポップ」「新聞」「ポスター」を見て、工夫されている点への記述
第二 次	2	・推薦する本を決めて内容を考える。	・次の観点を示して、本と照らし合わせながら、書かれている内容を読み取らせる。 ①タイトル、作者などの基本情報。 ②本のあらすじ、お勧めしたい場面、セリフなど。	[知識・技能①] <u>ワークシート②</u> ・自分が勧めたいポイントの記述
	3 4	・「図書すいせん会」の準備をする。 ・推薦の文章を書く。	・強調したい部分の絵や文字が工夫されているかを確認し、優れている児童の作品を紹介する。	
	5 本 時	・友達の作品を読み、アドバイスを送る。 ・もらったアドバイスをもとに、多くの小学生の興味を引くものになっているか確認する。	・自分が手に取りたい内容になっているか確認させる。 ・もっと知りたい点はないか確認させる。 ・友達からもらったアドバイスをもとに、作品をどうするか考えさせる。	[思考・判断・表現①] <u>付せん・ワークシート③</u> <u>ノート</u> ・互いの意見や感想の違いに気づき、より多くの小学生の興味を引くものになるように工夫したい点への記述
第三 次	6	・もらったアドバイスをもとに作品を仕上げる。 ・学習の振り返りを行う。	・推薦の文章を書く。	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>ノート</u> ・学習に対する感想の記述

※適宜資料を見直したい場合は、朝の学習の時間を活用する。

7 本時の指導

(1) 評価規準

互いの意見や感想を聞き、自他の作品がより多くの小学生の興味を引くよう、考えたことを付せんやワークシート、ノートに記入している。 [思考・判断・表現]

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
10	1 本時の学習と学習のめあてを知る。		
友達に作品をみてもらい、よりよいものにつなげよう。			
20	2 友達の作品にアドバイスを送る	<ul style="list-style-type: none"> ・3人1組で行う。 ・青い付せんには「良かったところ」、赤い付せんには「直した方が良いところ」「もっと知りたいこと」を書くよう指導する。 ○付せん・ワークシート③ [思考・判断・表現] ≪「努力を要する」を判断した児童生徒への手立て≫ <ul style="list-style-type: none"> ・事前に、付せんではなく、教師が用意したワークシートに「読みたいと思ったところ」「直したらよいと思ったところ」「疑問に思ったところ・もっと知りたいところ」を記入するよう指導する。 ・内容だけでなく、デザインにも注目させる。 	付せん (青・赤) ワークシート
15	3 もらったアドバイスをもとに、変えたい点、残したい点を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・もらった付せんの中身を確認し、おおまかな分類ごとに分け、情報を見やすくするよう指導する。 ・自分の作品に固執せず、「多くの小学生が興味を引かれる作品」の視点にたつよう指導する。 ○ノート [思考・判断・表現] ≪「努力を要する」を判断した児童生徒への手立て≫ <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見に固執せず、自分の作品に加えら 	ノート

5	4 本時の学習を振り返る。	れそうなものを1つだけ選ぶよう指導する。 ・ノートに書いた内容を発表するよう指導する。	ノート
---	---------------	--	-----

(3) 板書計画

学

・ ・ ・
学習を振り返って

・ ・ ・
〈良いアドバイス例〉

青い付せん↓良かったところ
赤い付せん↓直した方が
良いと感じた
ところ
もっと知りたい
ところ

3人1組
一人5分間

友達に作品をみてもら
い、よりよいものにつな
げよう。

【成果】

- 最初に良い手本を見せたことで、「相手意識」が高まった。また、「図書館のHPなどに掲示する」と伝えたことで児童の意欲向上につながった。
- 継続して本の紹介などに取り組んできた結果、セリフの抜き出しやあらすじの要約、印象に残った場面の選択などのスピードが速かった。

【課題】

- ▲読んでいない本の批評は難しい。事前にグループの本を読ませておいてもよいかもしれない。
- ▲文章形式で批評するのは時間がかかった。メモ程度にして、相手からメモを受け取りながらじっくり話を聞く方法でも良かった。